



株式会社アルファテック×株式会社アイオイ実証実験開始 記者発表

畜産飼料の地域内循環を目指して

yori-i project「産業」アジェンダコーディネーター
阿部 公一

山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業
yamagata yori-i project
2024年2月9日





「産業の強化と変革」

ヒアリング結果・課題

- ① 農業産出額が低い
- ② 耕作地の減少
- ③ 海外向け観光業の振興
- ④ 高いエネルギー支出
- ⑤ 自然エネルギー資源の未活用

既存産業や新規産業を持続可能な形に変革していくため、
様々な分野からアプローチしていく

農業 畜産業 耕作放棄地 インバウンド バイオマスエネルギー

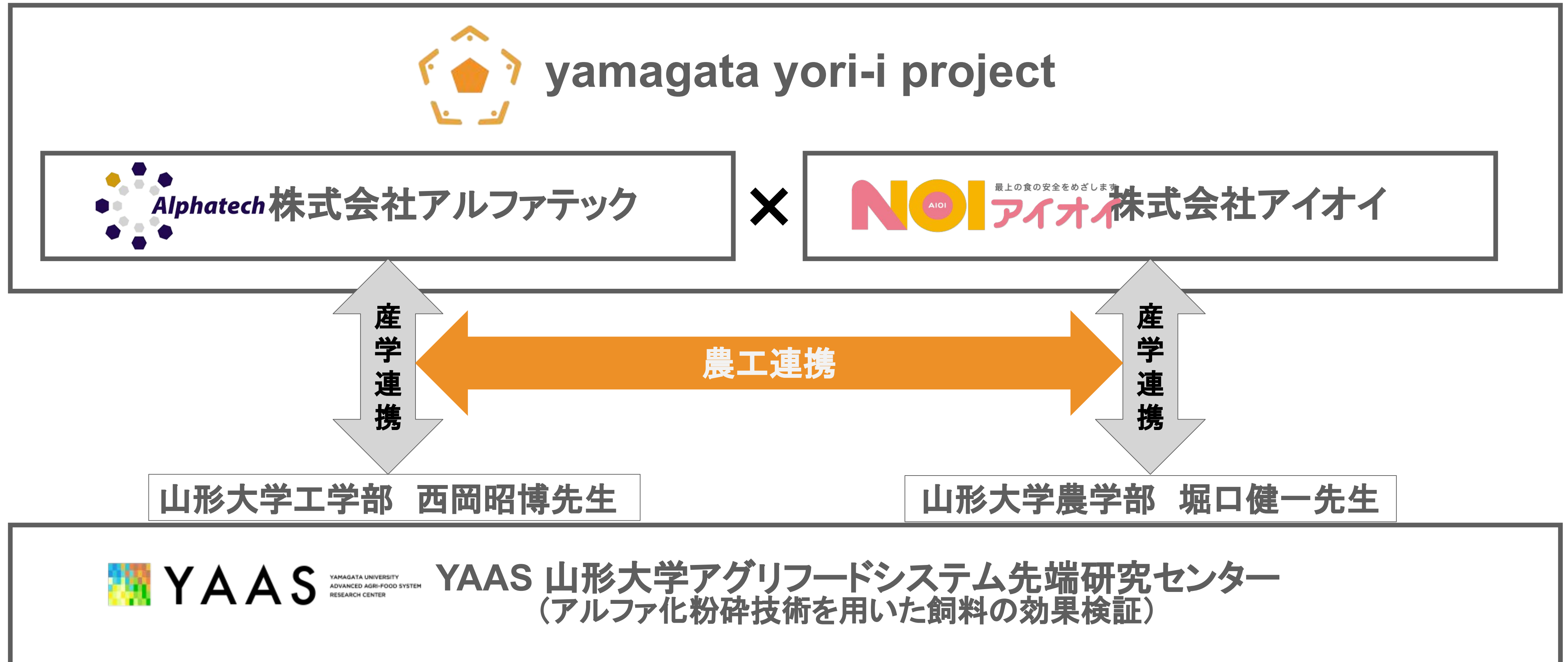
株式会社アルファテック 株式会社アイオイ

畜産業における飼料の地産地消の促進により畜産飼料の海外依存からの脱却を目指し、さらに消化性を高める加工技術によりサステイナブルな域内循環を実現する。

アルファ化粉碎技術を活かした サステイナブルな飼料を通じて、畜産農家を支援

山形県地域には米などの豊富な畜産向け農産資源があるが、地域での畜産への活用が十分できていないという現状がある。この課題の解決に向けて、山形大学工学部発ベンチャー企業の株式会社アルファテックと、先駆けて国内の飼料米を用いて養鶏を行い、山形大学農学部と共同で研究も行っている山形県鮭川村の株式会社アイオイが連携し、アルファ化粉碎技術を活かした飼料を用いた発育の実証実験を行う。

山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)とも連携を行い、域内農産物の高度利用を図る。



- ・株式会社アルファテックと株式会社アイオイが連携して養鶏の実証実験を行う
- ・yori-i prpjectが枠組み形成のサポート
- ・山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)が効果検証、プロセス化

關係者紹介

テーマリーダー 株式会社アルファテック



代表取締役 駒井雄一 氏

1989年に大阪大学卒業後、リクルート、ビーマップ、パラカでビジネス経験を積み2018年に当社を設立。ネットサービスの立ち上げや新規開拓営業部隊のマネジメント、取締役としてIPOなど多岐にわたる経験。

ボードメンバー 株式会社アイオイ



代表取締役 五十嵐忠一 氏

山形県鮭川村にて、ブロイラー生産(毎日7,000羽・年間170万羽)鶏肉の加工品販売、鶏糞焼却灰による特殊肥料の生産・販売、飼料用米取組(循環型農業)などの事業を行う。ブランド鶏「最上どり」を確立し、鶏の一大産地として山形の鶏を発信している。



株式会社アルファテック創業者・インベーター&
エグゼクティブテクニカルアドバイザー
山形大学工学部教授
YAAS高付加価値機能性フード生産部門リーダー

西岡昭博 氏

山形大学工学部教授でアルファ化製粉技術の確立と米粉100%パンの開発に成功。本事業に関わる特許技術の発明者であり、株式会社アルファテックの創業者。同社ではエグゼクティブテクニカルアドバイザーを務める。



山形大学農学部教授
YAASサステイナブルアグリ生産部門

堀口健一 氏

山形大学農学部教授で、家畜における栄養・行動学的研究やイネの家畜用飼料としての利用に関する研究などを行う。

